

安 全 情 報

～ 奥さん、ハンドバッグの位置に気をつけて！（刑事コロombo編）～

「自分の身は、自分で守る。」をモットーにカンボジアライフを楽しく、良い思い出をつくるため、安全情報を提供させていただきます。

《今回は、プノンペン市内で発生した邦人被害の「スリ事件」を紹介し、注意喚起させていただきます。》

～カンボジア勤務の夫をサポートするため、家族共々カンボジアで生活することとなったA子さん、
ちょっとした気の緩みから財布をすられてしまい、コロombo刑事から事情聴取を受けています～

コロombo：奥さん、貴方ですね？

ERNレストランで食事中に財布をすられたのは？

A子さん：はい。友達とワインを飲みながら食事していたところ、ハンドバッグの中にしまっておいた財布が盗まれたのです。

コロombo：そうですか。

せっかくの楽しいひとときが、ブルーになってしまい残念ですね。

A子さん：そうなんです。おいしいワインとおいしい料理で、友達との話も盛り上がり、カンボジアライフも捨てたものではないと思っていた矢先のことでしたから…。

コロombo：ところで奥さん、先ほどハンドバッグの中にしまっておいた財布が盗まれたと言いましたが、ハンドバッグは無事だったのですね。

A子さん：はい、無事でした。ハンドバッグの中から財布だけが盗まれたのです。

現金と日本の自動車運転免許証、それとクレジットカード類をしまっておいた財布が…。

コロombo：それは、本当にお気の毒です。

では、奥さん、ハンドバッグは、どこに置いておいたのですか？

A子さん：椅子の背もたれに掛けておきました。

店に入ると私たちの他に客がいなかったので、まさか盗まれるとは思わなかったものですから…。

椅子に腰掛けながら、持っていたハンドバッグを背もたれに掛けてしまったのです。

コロombo：ほう、すると奥さんは、背もたれに掛けておいたハンドバッグの中から財布だけが盗まれた、というのですね。

A子さん：はい。それも、ちゃんとハンドバックのチャックを締めておいてです。

コロombo：ちょっと、待って下さいよ。

奥さんは、財布が盗まれる間、ずっとその席にいたわけですよね。

それなのに、なぜ泥棒にあったのか？まして、友達と席を共にして…。

うーむ、不思議ですね。まして、他に客がいなくてもかわらず。

A子さん：いいえ、実はいたのです。他に客が…。

いたというより、正確には、後から入ってきたのです、カンボジア人の女が1人。

コロombo：奥さん、それをもっと早く教えて下さいよ。てっきり私は、財布が奥さんのことを嫌になったのでハンドバッグの中から勝手に出て行ってしまったのかと思いましたよ。

私などは、財布ではなく現金に良く羽が生えて飛んでいってしまうものですから…。

奥さん、その女、怪しいですね！

A子さん：はい。

その女は店員に、これから友達が来るから待たせて欲しいといって私の後ろの席に座り、コーラ1本を注文したのです。

他の客が店に入ってきたので、この時にハンドバッグを自分の前に移動すれば良かったのですが、既にハンドバッグのことは忘れてしまい、会話に夢中になっていたのです…。

いずれにしろ今となっては、後の祭りです。

その女は、30分位経過すると店を出て行ったのですが、その間まったく友達らしい人

物は現れませんでした。

コロンボ：うーむ、怪しいですねえっ！

A子さん：そうです。最初から、この女は私を狙っていたのでは？とってしまうほど、その犯行が上手だったのです。

店内は、うす暗く私の対面の友達も、その女が何をしているのか女の手元までは見えなかったのですが、女はテーブルとテーブルの間隔が狭いことに乗じて、背中合わせで座った私の椅子の背もたれに掛けてあったハンドバッグに手を回し、手探りでハンドバッグのチャックをはずし、中から財布を盗んだのです。

友達との会話に、つい夢中になり油断してしまいました。

コロンボ：それはプロですな！ で、犯人は女に間違いないですね？

A子さん：はい、30歳前後のカンボジア人女性です。

店員がいうには、以前にも来たことがあると言っていました、どこの誰だかは分からないとのこと。

コロンボ：ほー、女性ですか…。

いやねー、私の知り合いは、深夜 St.51 を徒歩にて通行中、オカマに突然抱きつかれて、財布をすられそうになったものですから、すり犯人はオカマかと思ひまして…。

A子さん：まさか、店がグルになっているということはないと思いますが、犯人はテーブルや椅子の配置状況、さらに店員の接客状況等を良く知っているといった感じでした。

やはり、店員の接客状況一つをとっても、犯人に泥棒の機会を与えるなど多少なりとも影響があったのではないかと感じてしまいました。

会食中、店員が客の前に出てこないということは、それなりに都合の良い時もあるのですが、このようがあると客としては、やはり店員は客の様子や動向を見るべき、と感ずてしまいます。

お客様が喜んでいるのか、何を欲しているのかなど、そんなお客様の気持ちが分かるような接客のできるレストランであれば、すりや置引きは起こらないのではないかなと思ひました。

コロンボ：ほー、さすが奥さん。そのとおりです。

犯人は、犯行前に店内の状況は勿論、他の客や店員の様子といったところまで、確認した後、犯行に及ぶのですよ。発作的に犯行を行うといったケースもありますが、それでも人目は気になるものです。

いずれにしろ、お客様の気持ちの分かる、そんな接客のできるカンボジアに早くなってもらいたいものですね。

A子さん：はい。今回は、高い授業料でしたが勉強になりました。

やはりカンボジア、犯罪の被害にあわないよう自ら犯罪者を寄せ付けないという気構えが必要だということをもざまざと見せつけられました。

コロンボ：あ、それから奥さん、もうひとつだけ教えてください。

盗まれたクレジットカード等の番号や盗難紛失時の連絡先はどこかに控えてありましたか？

クレジットカードの番号とカード会社の電話番号をどこかに控えておくといいですよ。

いやね、うちのかみさんが、控えてくれているのですよ。私はどうもそういうのが、苦手ですね…。

カンボジアが、安全になったとはいえ犯罪の発生は皆無ではありません。海外では特に注意し、危険な場所には近づかない。多額の現金、貴重品は持ち歩かない。犯罪にあっても抵抗しない。見知らぬ人を安易に信用しない。

買い物は信用のおける店を選ぶ。ホテルの中でも安心しない。など防犯に心掛けて下さい。(了)